

福祉にいがた

Fukushi Niigata

CONTENTS

巻頭

地域紡ぐ・サークル「つういんくる」
活動紹介（2・3面）

- 平成30年度新潟県社会福祉協議会事業報告・概要
- 新潟中央高校のボランティア活動紹介

7月号
2019
第803号



絵 高橋 郁丸「七夕」（漫画家・新潟市中央区）・文 11面

地域紡ぐ

重症心身障がい児
育児サークル

つういんくる（渡辺雅子・家族代表⇨燕市ほか）

燕市を中心とした県央地域で重度の障がいのある子どもを育てるお母さん、お父さんらのサークルです。家族代表の渡辺雅子さんから3人が立ち上げ、4年目を迎えました。今は十数組の親子が参加しています。スタートは、同じ地域で育児の不安や悩み、そして



岩室温泉街の丸小山公園でのお花見会

医療や行政サービスなどの情報を共有する場を持ちたい、語り合う場がほしい、という切実な思いです。「一人ではできなくても、みんなならできるところもある」と渡辺さん。つらさや大変さを抱え込んで孤立することなく、親がホッとでき、子どもも安心して生活

悩みや不安、

できる居場所を目指して活動しています。

集まるのは基本的に毎月第3土曜日。燕市児童研修館「こどもの森」などを拠点に、親たちが交流できる茶話会や勉強会、放課後デイサービスセンターなどの施設見学をはじめ、子どもたちも一緒に楽しめる行事を組んでいます。春の花見からプールでの水遊び、花火大会見物、岩室温泉街で

の芸術祭への参加、クリスマス会などです。また、医療、教育、福祉関係者向けの地域の研修会に当事者として参加し、支援を呼びかける活動も行っています。行事などを通し、子どもたちは「いろいろな人と関わり、社会性が育まれた」と言います。親たちも「将

共有できる居場所づくり

来の不安を話せる場ができたことが大きい」「分かってあげてうれしい。気が楽になった」「気を使わずにいられる場所があります」との声を寄せています。

渡辺さんは「地域に根ざした会にしたい」と話します。そのために、小さな活動の積み重ねを大切にします。行政や地域を動かし、障がいのある子どもが地域で生活していることを認

知、理解を深めることにつながると考えるからです。花火大会見物では、大きな音を直接聞くことは、子どもたちにとって大きなストレスになることや、体温調節が難しく特別な配慮が必要なことなどを理解してもらい、庁舎内で見物しました。行政側に重症心身障

がい児の実情の一端を分かっってもらえる契機ともな



ビジョンよしだでのプール遊び
毎年夏に数回開催

◆メモ◆

重症心身障がいとは。重度の肢体不自由と重度の知的障がいとが重複した状態を言う。サークル名の「つういんくる」は「つばめ」とキラキラ輝くことを表す「twinkle」を掛け合わせた名称で、お母さんたちが考案した。

連絡先 電話0256182-4831、岩室リハビリテーション病院訪問看護ステーション、松宮さんへ
<http://www.twinklename-tubasan.net/>

りました。

一方で、4年目を迎え、サークル活動の広がりが課題です。渡辺さんは「重症心身障がい者のお母さんたちの参加も大歓迎。将来のことを考えると、成人となった時の介護や対応を知りたい。また、行事などで介助ボランティアを募っている」と話します。さまざまな活動での若い世代の参加・協力を期待を寄せています。今まで接点のな

かった分野の人たちとも交流を深め、「つういんくる」の周知にも努めています。立ち上げから関わっている岩室リハビリテーション病院・訪問看護ステーションの松宮孝子さんも「先輩から情報を聞くことができるところが一番。特別支援学校や行政、病院との連携も取れるようになった。一緒に楽しんでほしい」と新たな参加を呼びかけます。理学

療法士の松宮さんは、他県の療育施設での経験があり、ノウハウも豊富。県央地域には、在宅の重症心身障がい児は20人以上いると推測しています。サークルは、立ち上げから県立吉田病院小児科や岩室リハビリテーション病院訪問看護ステーションの支援を受け、四季折々の活動が続けてきましたが、渡辺さんらの目標は、県央地域



年に1回の行政、議員さんとの意見交換会

に重症心身障がい児を受け入れる専門の療育施設設置



ボランティアさんが楽しい企画を準備してくれたクリスマス会

です。重度の障がいを持っていても、子どもが安全に

安心して生活できる環境や、子育て、介護に当たる親たちが病気などでそれができなくなった場合などへの備えを求めています。
(取材協力：新潟NPO協会)

◆ 地域の社会資源を耕し、共生社会に向かって、地域を支えるNPO法人や福祉関連団体などの活動を紹介합니다。
◆ Ⅱ 随時掲載Ⅱ

ず〜む 2019 Vol.36

日常にひとさじの 音色を

先日、自宅にあるピアノを久しぶりに触ってみたのですが、もの見事に何も

弾けなくなっていました。昔取ったナントカ[®]が発揮されるわけでもなく、あえなく撃沈……。でも、あの時に弾いたあの曲を、さわりだけでもいいから弾きたい！と思ひ、そこから楽譜を必死に追いました。1音追うごとにその曲を練習していた当時の記憶が戻ってくるようで、だんだんと楽しくなってきました。この曲はあの時に弾いたなあとか、そうそう、ここがちよっと難しいんだよね！などと思ひ出しながら、そ

のままぎこちなくも気ままに弾き続けました。思えば「音楽」は、小さい頃から私たちのそばにあり、成長の過程とともに慣れ親しんできたものです。口ずさむ、聴き流す、誰かと一緒に演奏するなどなど、生活の中で誰もがどこかに接点があるものと思ひます。

学生の頃に仲間とボランティアで演奏に訪れた高齢者施設に、私たちが歌った歌に涙を流されていた方がいたことが思ひ出されま

す。よくよく聞けば、私たちが歌ったのはその方が昔から馴染みがあり思ひ入れのある曲だったそうで、聴くうちに様々な思ひ出が蘇り、涙が込み上げてきたといひます。演奏から生まれた音が、その方のこれまで歩んできた道のりをなぞりながら、そつとその方の心に寄り添ったのでしようか。最後にいただいた「ありがとう」との言葉が、今も胸にじんと残っています。また、同じくボランティアとして保育園に行った時

(実央)

新潟県社会福祉協議会

平成30年度事業報告・概要

1 県社協活動指針の推進

県社協の基本理念や基本方針実現のため、平成30、32年度を計画期間とする活動指針に定める次の3事業を重点的かつ計画的に実施。

【地域共生社会実現に向けた基盤構築の推進】

1 地域福祉に関する問題や課題解決に向けた具体的な取組の研究・協議

「地域共生社会実現に向けた地域福祉活動の展開に関する検討委員会」を設置し、市町村社会福祉協議会における地域福祉活動の調査を実施するとともに、現況分析及び課題抽出を実施。

2 新たな社会課題に焦点をあてた「テーマ型調査」の実施と課題解決に向けた具体的な取組の研究・協議

「新たな社会課題の解決に向けた具体的な取組

決に向けた具体的な取組

① 生活困窮者自立支援事業担当者等学習会（社協における、住まいの貧困への取り組みを考える）

② 住民の互助による移動・外出支援勉強会@湯沢

③ 住民主体の地域づくりセミナーin湯沢（地域ぐるみで子どもを育み、見守る地域づくり）

④ 子ども居場所づくりフォーラム

① 上越市社会福祉協議会福祉教育推進に向けた協議の場づくり

② 魚沼市社会福祉協議会地域課題の見える化に向けた取り組み

③ 湯沢町社会福祉協議会地域づくり推進における人財発掘、育成

④ 地域共生社会の実現に向けた関係機関・団体との連携の場づくり



湯沢町での住民相互による移動・外出支援勉強会

新潟市 参加者91名

【地域における権利擁護事業の推進】

1 日常生活自立支援事業

市町村社協実施方式への移行を進めるため、未移行社協への個別訪問や3地区での市町村社協移行推進会議を開催し、平成31年度は8市町村社協が移行することになり、未移行社協は1社協。また、事業実施社協及び専門員、生活支援員への支援のため、巡回訪問のほか、専門員会議、新任専門員研修会、生活支援員研修会などを開催。

① 成年後見制度普及促進事業

② 成年後見制度普及促進事業

③ 成年後見制度普及促進事業

④ 成年後見制度普及促進事業

⑤ 成年後見制度普及促進事業

⑥ 成年後見制度普及促進事業

⑦ 成年後見制度普及促進事業

6月29日 新潟市 参加者138名

② 市町村長申立推進研修会

③ 成年後見セミナー

④ 成年後見制度利用促進に係る意見交換会（3回）

⑤ 成年後見制度推進連絡会議

⑥ 法人後見推進研修会

⑦ 成年後見制度普及促進事業

⑧ 成年後見制度普及促進事業

⑨ 成年後見制度普及促進事業

⑩ 成年後見制度普及促進事業

【福祉職員のキャリアパスの構築】

1 福祉職員キャリアパス対応生涯研修

① 初任者コース

② キャリアパス対応生涯研修

(新潟市、三条市) 受講者283名

② 中堅職員コース6月から11月にかけて6回開催(新潟市、三条市) 受講者344名

③ チームリーダーコース7月から11月にかけて3回開催(新潟市、三条市) 受講者207名

④ 管理職員コース 8月に1回実施(新潟市) 受講者53名

2 社会福祉施設・事業所におけるキャリアパス構築

支援研修等

① 福祉事業所におけるキャリアパス構築支援研修
新潟市 5月18日 受講者66名

② 社会福祉職員スタートアップ研修 新潟市 6月、11月の2回開催 受講者131名

③ エルダール研修 新潟市 5月17日 受講者108名

3 社会福祉研修事業アンケート調査
キャリアパス導入や研修の受講状況等の調査。

9月5、6日 長岡市 参加者43名

② 市町村社協経営基盤強化研修会 3月7日 新潟市 参加者32名

③ 市町村社協BCP策定ガイドライン策定
ガイドライン編纂委員会を2回開催し、ガイドラインの策定の検討を実施。

3 ボランティア活動の振興
① 企業等におけるCSR・CSV推進セミナー 2月6日 新潟市 参加者76名

② 福祉教育の現況調査の実施
③ 大学生・高校生ヤングボランティア応援プロジェクト
県内高校のボランティア活動を「福祉にいがた」に掲載。

4 関係機関・団体との連携・支援の推進
① 福祉関係団体との連携・協働を基盤とした政策提言、予算要望活動の実施
10 福祉団体共同による県知事及び県福祉保健部長に対する要望活動 12月25日

② 災害福祉広域支援ネットワーク事業の推進

・災害福祉支援チーム員基礎研修 11月29、30日 新潟市 受講者98名

・災害福祉広域支援セミナー 2月26日 新潟市 受講者54名

① ねんりんピック
・第23回にいがたねんりんピックの開催 12種目 参加者1029名

・全国健康福祉祭(ねんりんピック)派遣 11月3、6日 富山県108名派遣

② シニアカレッジ新潟(新潟県高齢者大学から名称変更)
・基礎応用課程講座 1年次 4クラス 全14日間 143名修了
2年次 4クラス 全14日間 126名修了

・実践講座 7コース 各3、4日間 127名修了

・シニアカレッジ新潟30周年記念事業の実施 12月19日 新潟市 参加者368名

年記念事業の実施 12月19日 新潟市 参加者368名

① 高齢者総合相談センターの運営
相談者数 1637名
相談延件数 2134件

3 障害者の社会参加の促進
① 福祉の店パレット新潟店の運営
・農福マルシェ開催(福祉・介護・健康フェア 2018同時開催)
・障害者施設商品のコンプライアンス強化 HACCP導入のためのマニュアルハンドブック作成

4 生活の安定への支援
① 生活福祉資金等貸付事業 貸付件数:125件/貸付



2 基本方針別の事業実施概要

【みんなで育む】

福祉のまちづくり

1 県民の福祉への理解促進と福祉の心の醸成

① 第68回新潟県民福祉大会



の開催

10月30日、31日 村上市 参加者約1000名

② 福祉・介護・健康フェア 2018の開催

・新潟市 11月18日 来場者 1万8966名
・長岡市 12月2日 来場者 4803名
・上越市 11月23日 来場者 1621名

2 地域福祉活動の振興

① 市町村社協会長視察研修

額…3174万5675円

②ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業

貸付件数：22件／貸付額：854万円

③児童養護施設退所者等に

対する自立支援資金事業

貸付件数：9件／貸付額：441万9600円

【利用者主体の福祉サービスづくり】

1福祉サービス利用者の苦情解決支援の充実

①福祉サービス運営適正化

委員会の開催

委員会 2回

・利用援助事業調査小委員会 4回

・苦情解決小委員会 6回

(苦情受付実績51件)

②福祉サービスに関する苦情解決研修会の開催

6月、10月に2回開催

参加者364名

【福祉を支えるひとづくり】

1福祉従事者の確保・就労の促進と働きやすい職場づくりへの支援

①福祉人材センター事業

・福祉人材無料紹介所での

求人求職相談、斡旋

相談件数9488件、採用150名

・就職フェア等の開催

福祉のしごと就職フェア

5～2月に5市で8回開催

来場者820名

・人材確保のための法人向けセミナーの開催

5月8日 新潟市 受講者 86名



人材確保のための法人向けセミナー

②介護福祉士等修学資金貸付事業の実施

・介護福祉士・社会福祉士

修学資金

貸付件数：59件／貸付額：2097万円

・介護福祉士実務研修受講

資金

貸付件数：67件／貸付額：1147万円

・離職介護人材再就職準備

金

貸付件数：4件／貸付額：80万円

2介護の理解促進と知識・技術の普及・促進

①県民介護知識・技術習得

講座

・介護の基礎コース 新潟市、長岡市で4回開催

参加者93名

・ステップアップコース

新潟市、長岡市で4回開催

参加者54名

・介護体験・入門コース

新潟市、上越市で6回開催

参加者69名

【法人運営機能の強化】

1職員の育成・組織力向上

組織力向上研修、社協

職員研修、実践研修などを

を実施。

2自主財源確保に向けた取

り組み

事務局職員による経営

強化プロジェクトチーム

を設置し、自主財源増強、

経費効率化を検討。

3新潟ユニゾンプラザの管

理運営

福祉NEWS

2019年5月11日～2019年6月10日

■幼保無償化 10月から

10月から幼児教育・保育を無償化するための改正子ども・子育て支援法が賛成多数で可決、成立した。財源は消費税率10%への引き上げによる増収分を充てる。しかし、職員資格などの基準を満たさない施設も無償になるため、保育の質が確保できないとの懸念は根強い。

■実務経験を優先

介護EPA人材 即戦力に

政府は、4月に新設された在留資格「特定技能」の介護人材の受け入れで、経済連携協定(EPA)で来日して約4年の就労・研修経験がある外国人について、一定の

条件(直近の国家試験で「合格基準点の5割以上」など)を満たせば、試験を受けずに特定技能に移行できるようにした。今までは、介護福祉士の国家試験に不合格だと帰国しなければならなかったが、実務経験のある外国人材を即戦力として活用することにした。

■災害ボランティア活動円滑化へ 調印 国とNPO法人が連携

山本順三防災担当相は5月20日、災害時のボランティア活動を巡り、被災自治体との調整などを担う「中間支援組織」になるNPO法人との連携強化の調印を交わした。ボランティア団体が個別に動

くと支援が一部の自治体に偏るといった混乱を避け、調整により活動の円滑化につなげる狙いだ。

■75歳以上の返納5年で3倍(全国)、県内65歳以上は2倍に

高齢ドライバーが運転免許証を手放す動きが広がっている。警察庁によると2014年の75歳以上の返納者は9万6581人で、この5年で3倍に増加した。それでも生活の足として車を手放せないお年寄りはまだ多い。県内では2018年に自主返納を行った65歳以上の高齢者は過去最多の8442人。14年は4287人でこの5年間で約2倍に増加している。

福祉サービスに関する苦情相談 新潟県福祉サービス運営適正化委員会

はじめに本福祉サービス運営適正化委員会に寄せられたある苦情相談についてお話しさせていただきます。

ご家族である入所者がある介護事業所を入院に伴い退所するにあたって、入院

する病院と退所時間や病院の受診時間などを打ち合わせた内容を記載したペーパーを事前に当介護事業所職員に渡してあったそうです。

相談者はそのペーパーをもとに詳細を当該担当職員と打ち合せた方が分かりやすいと思われたようで、そのペーパーのことを説明したところ当該担当職員には事前にもらっていることが伝わっていないかったようです。

また入所者が服薬していた薬の残量についても、ま

だたくさん残っていると職員から言われたり、もうそんなに残っていないと言われたり、対応した職員によつて言い方が違っていたようです。

そこで相談者は当該担当職員にこれ以上言ってもはじまらないと思い「私の要望などは事業所のどこに言えばよいのですかと聞いたところ、前に渡した紙（入所時に渡した案内書等と思われる）を見てもらえば分かる、そうでなければ市役所に苦情を申し立ててほしいと言われた」というものです。なお、本委員会でも当該担当職員に事実関係を確認した際、相談者が受けた対応と同じような感じを受けました。

本委員会では、苦情受付

担当者等を対象とした研修会を毎年6月に開催していますが、その際のアンケートでは、苦情受付担当者として求められる能力について何項目か尋ねた中で、「利用者や家族からの声に耳を傾け、誠実に対応ができる能力」が必要だとする意見が最も多くありましたが、ほんの一部の職員の中には相談者に対して疑問を持つ対応をされる者がいるように感じました。

職員は毎日多くのストレスを感じて仕事をしている中で、人間ですので利用者や家族からの声に耳を傾け、常に誠実に対応できない日もあるかと思われま

す。そのため職員研修は必要と認識しつつも、日頃の勤務があつてなかなか所内研修会を行えないところも

多いかと思えます。

ただ他事業所の実態も聞ける中で、職員としてどのように対応したらよいのかを考えるプログラムを組んでおりますので、研修会への参加も検討していただければと思います。

本委員会には平成30年度も45件の苦情相談が寄せられました。内訳は、高齢者施設関係が前段での相談も含めて14件、障害者施設関係が17件、児童施設関係が8件、その他の施設関係が6件でした。県社協のホームページに「平成30年度苦情相談対応一覧」として掲載してありますので各福祉施設・事業所の苦情対応に向けた取り組みの参考にしてください。また事業所から要請があれば所内研修会において詳細をお話しすることも可能ですので、そのときはお問い合わせください。

寄付 寄付ありがとうございました

(敬称略)

日付	寄付者	寄付額
令和元年5月22日	(株)ツルハホールディングス クラシエホールディングス(株)	車椅子5台



日付	寄付者	寄付額
平成31年4月28日	大光銀行 たいこう寄付型私募債「希望のかけ橋」 (新潟県内の児童養護施設のために)	100,000円
令和元年6月10日	新潟県信用金庫協会 (社会福祉のために)	181,000円

平成31年度

全社協 保育所の損害補償

スケールメリットを活かした有利な補償と割安な保険料です。



◆ 加入対象は社会福祉法人等が運営する認可保育所、認定こども園

セットプラン

● 簡単、便利なインターネットで手続きを

ふくしの保険

<http://www.fukushihoken.co.jp>

基本セット補償

	保険金額	年間保険料		
		定員数	保険料	
賠償責任	対人賠償	1名→1億円 1事故→7億円	41～50名	22,700円
	対物賠償	1事故→1,000万円	51名以降 1～10名増ごとに 90名まで	1,200円
	受託物賠償	200万円(自己負担なし) うち現金補償→20万円限度	91～100名	29,300円
	人格権侵害	期間中→1,000万円	101名以降 1～10名増ごとに 150名まで	1,200円
	事故対応特別費用	期間中→500万円	151名以降 1～10名増ごとに	1,420円
	被害者対応費用	1事故→10万円限度 (見舞金・見舞品は1名につき5万円限度)		
園児傷害	死亡保険金	121.2万円	園児1名	870円 (2口まで加入できます)
	後遺障害保険金	程度に応じて死亡保険金額の4%～100%	1口あたり	
	入院保険金	1,700円*		
	通院保険金	1,100円		

基本セット補償保険料計算例

100名で加入の場合	
賠償	29,300円
傷害	870円 ×100名 ×1口
合計	116,300円

* 手術保険金のお支払額は、入院中の手術の場合：入院保険金日額の10倍、外来の手術の場合：入院保険金日額の5倍となります。

天災セット補償

	保険金額	年間保険料		
		定員数	保険料	
賠償責任	対人賠償	1名→2億円 1事故→10億円	41～50名	28,000円
	対物賠償	1事故→1,000万円	51名以降 1～10名増ごとに 80名まで	1,500円
	受託物賠償	200万円(自己負担なし) うち現金補償→20万円限度	81～90名	33,900円
	人格権侵害	期間中→1,000万円	91～100名	36,200円
	事故対応特別費用	期間中→500万円	101名以降 1～10名増ごとに 150名まで	1,500円
	被害者対応費用	1事故→10万円限度 (見舞金・見舞品は1名につき5万円限度)	151名以降 1～10名増ごとに	1,800円
園児傷害	死亡保険金	108万円	園児1名	1,190円 (2口まで加入できます)
	後遺障害保険金	程度に応じて死亡保険金額の4%～100%	1口あたり	
	入院保険金	1,500円*		
	通院保険金	1,000円		

セットプランをおすすめします!!



個別プラン

プラン1
保育所業務の補償

- ① 基本補償
- ② 個人情報漏えい対応補償
- ③ 保育所の什器・備品損害補償

プラン2
保育所利用者の補償

- ① 園児の傷害事故補償
- ② 来園者の傷害事故補償
- ③ 園児送迎車搭乗中の傷害事故補償

プラン3
保育所職員の補償

- ① 保育所職員の労災上乗せ補償 **改定**
- ② 保育所職員の傷害事故補償
- ③ 保育所職員の感染症罹患事故補償 **改定**

プラン4
社会福祉法人役員の補償

社会福祉法人役員等の賠償責任補償

● この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約（賠償責任保険、個人情報取扱事業者賠償責任保険、学校契約団体傷害保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険）です。

● このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

団体契約者

社会福祉法人 **全国社会福祉協議会**

（引受幹事
保険会社）

損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、12/31～1/3を除きます。）

取扱代理店

株式会社 **福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
受付時間：平日の9:30～17:30（12/29～1/3を除きます。）

（SJK18-13581 2019.1.16作成）



赤い羽根情報

「若者+交流会」「親のサロン」 新発田市共同募金委員会

新発田市社会福祉協議会では、平成26年度から赤い羽根共同募金の助成を受けて、複合的な課題を抱える世帯の社会的孤立予防のため「若者+交流会」と「親のサロン」を実施しています。

「若者+交流会」では社会的ひきこもりからの脱却や社会参加を目的として、生きづらさを抱える若者が集まり、交流を通して親ぼくを深めています。日頃の思いや情報を共有したり、カードゲームを楽しんだりして過ごします。

また、生きづらさを抱える若者の親を対象に、わが子への理解や親同士の交流、社会とのつながりを目的として「親のサロン」を開催しています。具体的に



「若者+交流会」の様子

は、一人で問題を抱え込まずに適切な距離で子と接することができるように関係機関とも連携しながらサポートしています。

今後も引き続き、生きづらさを抱える若者がチャレンジできる地域づくりに取り組んでいきます。
ご寄付をいただいた皆さまに改めて感謝申し上げます。

配分公告の訂正

福祉にいがた5月号に掲載した平成30年度共同募金配分公告に一部誤りがありましたので訂正します。

区 分		正 (訂正後)	誤 (訂正前)
募金の部	その他募金	17,247,457	17,810,363
	地域歳末たすけあい募金	78,790,336	78,154,471
	合計	466,139,740	466,066,781
配分の部	事務費	66,310,000	69,478,294
	市町村地域助成	215,526,970	214,316,533
	合計	464,108,924	466,066,781

※返還金等を含むため、訂正後の募金と配分は一致しません。

福祉のしごと就職フェアin新潟 100人を超える就職希望者来場

福祉・介護人材確保へ介護施設など就職活動者のマッチングの場を作る、県内最大規模の福祉就職フェア「福祉のしごと就職フェアin新潟」(新潟県福祉人材センター主催)が、5月18日に新潟市中央区の朱鷺メッセで開催されました。売り手市場が叫ばれるなか、学生49人、一般62人の来場がありました!!写真!!。



の方から、全く未経験の方も来場されました。未経験の方からは、実際に働けるのか不安、責任の重い仕事ができるだろうか、などの声が多く聞かれます。

その不安を軽減し、できるだけ多くの法人につないでいく、もちろん経験者の方も含めてですが、それが私たち福祉人材センターの役割です。

今年度も全8回の就職フェアのうち、3回が終了しました。これから一人でも多くの求職者が福祉職場に就職できる、そして働き続けられる支援を行っていききたいと思えます。

来場者の声をいくつかご紹介します。

- ・現場で働かれている方のお話を生で聞けて、とても良い学びになりました。
- ・企業の方もスタッフの方も、具体的なアドバイスや仕事の内容の説明をしていただき、これからの就職活動に活かしていきたいと思いました。

参加法人は県内全域の高齢・障害・児童分野などの事業所をもつ64法人。施設の情報や求人概要などの説明を求職者に対して行いました。
また就職フェア前には、就活支援セミナーを開催。MSアカデミー(株)の方を講師に招いて、「応募書類作成時のポイント」を解説していただきました。
就職フェアには、福祉業界経験者



あしなが学生募金ボランティアへの参加



新潟中央高校JRC部は、校外での募金活動や、社会福祉協議会主催のサマーチャレンジボランティア、新潟市障がい者大運動会などに参加させていた

ています。また、校内では、文化祭などで東日本大震災や北海

新潟中央高等学校

JRC部

人とのつながりの大切さ学ぶ

道胆振東部地震災害義援金などの募金活動を毎年行っています。

昨年度の、「新潟市障がい者大運動会」のボラン

【部の紹介】新潟中央高校は、普通科・普通科学習コース・食物科・音楽科と多彩な学科がある、新潟県内一生徒数の多い県立高等学校です。本年度は2年生9人、3年生4人の合計13人で活動しています。

した。そして、「サマーチャレンジボランティア」では、特別養護老人ホームや、ひまわりクラブ、子ども食堂など、たくさんの方々の施設で活動させていただきました。

これらのボランティア活動をとおして、生徒たちは幅広い年代の方々と交流することができました。生徒は、高齢者の方と会話をする経験が少ないため、最初

が、お話を聞いたり、質問していただいたりして、最後には、利用者の方からお礼を言っていたいただき、喜びを感じていたようです。また、生徒自身が楽しんでいると、周りの方も笑顔になつて楽しそうにしている様子から、活動に対する自分の姿勢がどれだけ大切かという点に気づかされたようです。

どの活動においても相手の目を見て会話をする、自

分から積極的に動くという基本的なことが、とても大切であることを実感していました。

また、福祉施設は、生徒たちの抱いていたイメージより、明るく活気のある場所であると感じられたようです。利用者さんだけでなく、施設職員の皆さまとも会話することができると、職員の方々のコミュニケーションの取り方



文化祭での募金活動

JRC部顧問

堀越さきみ

新潟の信仰

七夕の物語は、恋に落ちた織り姫と彦星が、仕事をおろそかにした罰として天の川に隔てられ、年に1度七夕の夜にかかえなくなったというお話です。古くから親しまれてきた行事で、万葉集の歌にも詠まれています。

七夕はもともと中国伝来の行事で、農

います。

伝統行事は月遅れになることが多く、盆の先祖の乗り物として七夕馬を作る地域もありました。「薬水が流れる日だ」と、水浴びをする地域もありました。笹竹は祓い清めの植物ですし、盆の前の清めの行事と考えられたのでしょうか。農耕と蚕糸を表す恋人を引き裂いた天の川は、生活を脅かす水害でしょうか。水を恐れつつも、尊ぶ心が感じられます。

織り姫、彦星、そして白鳥座のデネブ

七夕 盆の前に笹竹で穢れを祓う行事

事を知る基準になった牽牛星（わし座アルタイル）、養蚕や糸・針の仕事をつかさどると考えられた織女星（こと座ベガ）、後には二人のために橋となるカササギ（白鳥座）も登場します。

笹竹に短冊を飾るのは日本独特の行事です。日本には古来から「棚機女」の考えがありました。棚機女は水辺の機屋にこもって神を迎え、穢れを祓うという、巫女のような存在でありました。新潟県には巻機山の女神や糸魚川の奴奈川姫など、水辺で機を織る女神の伝説が残って

を結んだ形は「夏の大三角形」と呼ばれていて、見つけやすい星です。今年、星を見上げながら短冊に願い事を書いてみましょうか。



文・絵 高橋 郁丸

（新潟県民俗学会理事・

新潟妖怪研究所長）

新潟ユニゾンプラザ 情報

◆主な貸室の紹介 【多目的ホール】



【座席数】 448 席
固定席：336 席
可動席：112 席

【舞台】
間口：14.6 m 奥行：8.1 m
高さ：7.6 m

各種の視聴覚設備を取り揃えたホールです。448 席のうち、前側 112 席はステージの下に収納できます。また、ホールには、子ども連れの用に「親子室」があります。

また、プロジェクターが新しくなり、従来よりサイズが大きく、映像も鮮明に投影されるので、是非ご利用ください。



NEW!

貸ホール・貸会議室は新潟ユニゾンプラザへ

多目的ホール、大会議室、大・中・小研修室など用途や規模にあわせてご利用いただけます。

無料の専用駐車場（220 台）を完備しております。

◆貸室の利用申込方法

ユニゾンプラザホームページよりお申し込みください。貸室の予約状況も公開しています。

URL：http://www.unisonplaza.jp/

【保育ルーム】



【授乳室】



施設内にてイベント開催時には、主催者が保育ルームを開設し、子どもを預ける場所として無料でご利用いただけます。館内の貸出施設と合わせてご予約ください。また、館内には「授乳室」もあります。

福祉の現場

—福祉の現場で働く人たちに、
仕事の魅力と懸ける思いを聞きました—



全国ヘルプマーク普及ネットワーク
& SDGs

新潟代表

なか やま たか こ
中山 隆子 さん

◆資格

新潟県手話通訳者

◆モットー

周知の輪をつなげていく事。
人との出逢いに感謝

◆所属団体情報

全国ヘルプマーク普及ネットワーク
& SDGs
ホームページ
<http://www.skart-tokyo.com/>

赤地に白い十字とハートのデザインが目印のヘルプマークとヘルプカード。難病や内部障害、人工透析・人工関節、または妊娠初期の方など、外見からは分かりづらいが、日常生活や災害時などに、周囲に援助や配慮を必要としていることを知らせる大切なツールです。このストラップタグのヘルプマークと全国ヘルプマーク普及ネットワークが作製した「トッキキキ手帳型ヘルプカード」の啓発活動に精力的に取り組んでいます。

カードには、緊急連絡先や必要な支援内容が具体的に書き込むことができます。

「特に生命の危機に直結すると思われる病気や障害の方は、マークとカードと一緒にバックなどに付けて

ヘルプマーク・ヘルプカード普及に全力

いてほしい。救急隊員がバックから取り出せないケースもある」

講演やラジオ出演、小学校の総合学習など、仕事の合間を縫って、周知やカードの配布、窓口への配置に努めています。「必要な人へ、情報を届けたい」との思いから、併せて、「サポートする側への周知も大切」と強調します。

燕市総合防災訓練ではブースを設け、必要性を訴えています。避難所では、このカードの提示でスムーズな対応につながると期待されます。「聴覚障害者は、聞こえないため誤解される例もあり、解決する手段はないかと、探した結果がマークとカードだった」と啓発活動に傾注した理由を話します。

20代のころ「将来、ボランティア

をした。手話か点字をやってみよう」との思いを抱いていたそうです。そんな時出会ったがNHKの講座番組「みんなの手話」。早速テキスト購入し、テレビを見ながらの勉強でした。その後、手話通訳者全国統一試験に合格、現在は、講演会や燕市近隣の病院での手話通訳を中心に、医師と患者の意思疎通をサポートしています。

新潟県も3月からヘルプカードを配布、7月からストラップタグの同マークを配布します。



燕市社会福祉協議会フロアに掲示されたヘルプマーク啓発チラシ

ユニゾンの図書館ニュース

健康で文化的な最低限度の生活

編著：柏木 ハルコ 発行：講談社

ドラマになった作品なので、ご存じの方も多いと思います。「生活保護」というテーマを軸に、受給者それぞれの「理由」に目を向けると、かわいそうだと感じる人たちもいれば、同情の余地もない人たちもいる。しかし、等しく生活保護を受給する権利はある。そういったジレンマの中で、新人“えみる”をはじめ中間のケースワーカーたちが日々葛藤しながらも「生活保護」と向き合っていく物語です。

問い合わせ 新潟ユニゾンプラザ図書情報ルーム ☎ 025-281-5514



◆ご意見・感想お寄せください
◆〒950-08575 新潟市中央区下所2-2-2
◆新潟ユニゾンプラザ3階 新潟県社会福祉協議会企画広報課
◆ファクス 025-281-5528
◆Eメール oasis@fukushihiniigata.or.jp

この機関誌は、
赤い羽根共同募金の
助成を受け発行しています。



発行所／社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会
新潟市中央区下所2-2-2ユニゾンプラザ
☎ 025-281-5584
発行人／関谷 政友
定 価／5円（会員の購読料は会費に含む）

福祉にいがた
令和元年7月1日発行（毎月1日発行）
昭和27年9月16日 第三種郵便物認可
印刷／島津印刷㈱